

Fukuoka University MEDICAL SCIENCE NEWS

No. 79

編集・発行
福岡大学医学会
福岡大学医学部内

福岡大学医学会ニュース

福岡大学の益々の発展を 祈念致します

福岡大学名誉教授 中山 樹一郎



今年3月末に福岡大学を定年退職致しました。皆様には大変お世話になりこの場をお借りしてお礼申し上げます。

私は平成10年4月に九州大学から福岡大学に赴任しまして、皮膚科講座に16年、総合医学研究センターに5年在職しました。この間の思い出といえば、一つは平成17年の地下鉄七隈線の開通です。それまで六本松で乗り換えてバス通勤していましたが、たまたま自宅から歩いて7～8分位の所に地下鉄駅ができたこともあり、通勤が大変楽になりました。また、医学部キャンパス周辺の道路が拡張・整備され街並みも以前とは見違えるほどに綺麗になりました。福岡市の都市整備計画に基づいたものだと思いますが、市の行政に感謝です。この間、福大病院の新設がなされ各科のセンター構想により外来診療が大変充実したのになりました。私も形成外科の大慈弥教授(現・副学長)と共同で美容医療センターを立ち上げました。現在、美容外科、レーザー療法など優れた美容医療がなされています。もう一つの思

い出が、交流のあった教授会メンバーの方々の私に対する暖かい人情とご支援です。私は一見とても元気そうに見えるらしいのですが、実は若い頃の不摂生によるものかある意味病気のデパートのようなもので、内科、外科、整形外科、脳外科、眼科、耳鼻科など数多くの科にお世話になりました。その時に色々と親切にいただいたのが教授会の方々です。そのお陰で今日が迎えられた、と言っても過言ではありません。また、仕事の面でも基礎医学の病理学、生化学、解剖学などの教授の方々に皮膚科学の研究に多大な協力をしていただきました。私の忘れられない思い出です。

今思い起こすと色々と難しいこともありましたが、皮膚科教室員や同門会、そして家族の大きな支えがあり、何とかここまでたどり着いた気がします。福岡大学医学部、ひいては福岡大学全体の益々の発展を心より願っています。

福岡大学での40年間 (自己を振り返って)

福岡大学名誉教授 前川 隆文

平成最後の年になる本年3月末日に福岡大学筑紫病院外科教授を退任いたしました。私は、昭和48年4月に福岡大学医学部に二回生として入学いたしました。昭和54年4月の医師国家試験に合格し6月に福岡大学医学部第二外科に入局し臨床修練を開始しました。当初は食道癌に対する三領域(頸部・胸部・腹部)郭清を提唱された三戸康夫助教授が牽引されている食道グループに配属されました。しかし三戸助教授は昭和57年1月半ばに劇症型肝炎のため還らぬ人となりました。昭和58年4月に念願であった福岡大学大学院へ進学することとなり、外科学第二講座教授である犬塚貞光先生の主催されます福岡大学大学院医学研究科臨床生化学に入学いたしました。病理学第一講座の菊池昌弘教授にお許しを得て病理学を学ぶこととなり、ここでリンパ球に対する免疫組織学的染色法を学び、病理学第一講座の岩崎 宏教授と外科学第二講座の神代龍之介助教授のご指導で学位論文「胃癌組織局所におけるTリンパ球の免疫組織学的検討」を作成し昭和62年9月に福岡大学大学院を卒業しました。この間に児玉好史助教授は体調不良を訴えられ闘病生活をおくられていましたが、奇しくも三戸康夫前助教授の命日の一週間後にあたる昭和61年1月23日逝去されました。2回目の福岡大学医学部外科学第二教室葬が営まれ、現職の助教授が任期3年毎に亡くなるという奇遇に遭遇しました。昭和62年10月に福岡大学医学部外科学第二講座の助手に昇格し、平成元年に米国のハーネマン大学医学部外科教授の松本輝夫先生を招いて成犬をもちいて腹腔鏡下胆嚢摘出術の実験実技をおこないその翌年に福岡大学病院では初の(後の調査で日本でも初とのこと)腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行し成功しました。平成3年5月から米国フィラデルフィアのハーネマン大学医学部外科に留学し、Laser SurgeryのPatency rate向上の研究に従事しながら臨床ではLaparoscopic Cholecystectomyに従事

できたのは幸運でした。平成4年10月に福岡大学病院外科第二の講師に昇格し主

に大腸直腸外科に従事させていただき、この時の臨床研究で「イレウスを伴う大腸癌に対する一期的切除・吻合法」や「肛門挙上器とヘルニアステープラーを用いた超低位直腸前方切除術」を発表し人工肛門を作らない大腸手術を完成しました。平成16年9月に福岡大学病院にもNSTチームが結成され私はその総括責任者としてNST室長を命じられました。当初は手探り状態でありましたが、一年後には「福岡大学病院におけるNSTの現況と成果」を発表しました。この頃より教室は着々と生体肝臓移植の準備を開始し平成18年6月に山下准教授と乗富講師を中心とする肝臓移植チームは福岡大学病院としては初の生体肝臓部分移植術に成功し、私もdonatorチームの一員として参加させていただいたことを誇りに思っています。そして福岡大学筑紫病院外科の有馬教授の後任として平成19年10月1日付で福岡大学筑紫病院外科の第二代教授として赴任いたしました。着任時の目標は福岡大学筑紫病院外科に内視鏡下外科手術を作ること、臓器別疾患チーフを作ること、筑紫病院外科独自の研修医を入局させることで11年6ヶ月間、医局員と苦楽を共にし福岡大学筑紫病院外科の隆盛に努めました。今ここに福岡大学での40年を振り返り、自分が歩んできた道を辿ると自分一人では何も成すことができず、その都度に多くの恩師や先輩、そして同輩や後輩達に助けられてきた自分がいたことに気付かされます。ここに改めてご指導いただいた先生方、ご協力いただいた皆さま方に感謝申し上げます。そして今後は学外から福岡大学を応援したいと思っております。有り難うございました。



長い間ありがとうございました

- 中山 樹一郎 教授 (総合医学研究センター)
- 安波 洋一 教授 (総合医学研究センター)
- 渡辺 憲太郎 教授 (総合医学研究センター)
- 向野 利寛 教授 (筑紫病院臨床医学研究センター)
- 前川 隆文 教授 (筑紫病院外科)
- 柳瀬 敏彦 教授 (内分泌・糖尿病内科)
- 山浦 健 教授 (麻酔科学)

平成31年3月1日～令和元年9月30日までに退職された方

- 尾籠 晃司 准教授 (精神医学)
- 大島 裕司 准教授 (筑紫病院眼科)
- 三上 公治 准教授 (筑紫病院外科)
- 伊東 裕子 講師 (産婦人科)
- 瀨武 大輔 講師 (呼吸器・乳腺内分泌・小児外科)
- 光武 良晃 講師 (筑紫病院 循環器内科)

以上、3月31日付け

新風

令和元年度 本学へ赴任、
昇格された方に自己紹介を
していただきました。

new phase

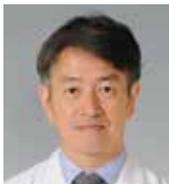


消化器内科学
教授

平井 郁仁

2019年4月1日に福岡大学医学部消化器内科講座の主任教授を拝命致しました。私は福岡大学医学部を1991年に卒業後、福岡大学筑紫病院内科消化器科に入局致しました。研修医、大学院、医局員と同病院で過ごしていく中で現在の専門領域である炎症性腸疾患（IBD）の診療と研究に携わることとなりました。

私が医師となってからの約30年で消化器内科領域の診療は大きく変わりました。消化管癌に対しては拡大内視鏡診断および内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）、小腸疾患に対するカプセル内視鏡やダブルバルーン小腸内視鏡など内視鏡による診断・治療、そしてIBDに対するレミケードなど分子標的薬の登場など枚挙にいとまがありません。肝臓疾患では肝炎ウイルスの治療が飛躍的に向上し、完治が見込める時代となっています。こうした最新の医療を取り入れつつ、既存の診断・治療の方法を上手に活用していく診療や研究が望まれています。福岡大学病院消化器内科には、私だけでなく、経験や知識が豊富な優秀な医局員が多数在籍しています。医局員全員の力を結集し、“実地医療に活かせる教育”、“患者さんを中心とした”あたたかい医療“の実践”、オリジナリティーのある研究”を推進したいと考えております。診療科、医局をあげて福岡大学医学部の発展に寄与していく所存です。今後の御指導、ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。



麻酔科学
教授

秋吉 浩三郎

平成31年4月より福岡大学医学部麻酔科学教授を拝命いたしました。これまで私は、心臓血管麻酔や小児麻酔、移植手術など、大手術の麻酔に多く携わるとともに、術前・術後患者管理にも幅広く携わって参りました。麻酔科の業務は手術室での麻酔管理に加えて、周術期管理、術後集中治療、救急医療、疼痛治療や緩和医療、無痛分娩、栄養管理や安全管理など、極めて多様な業務が求められています。医療の安全性は高まっていますが、重症患者の管理は未だ困難な領域です。今後、患者の高齢化に伴い、重症患者はますます増加しますので、これまで以上に注力すべき領域であり、こうした患者管理には、様々な分野のスペシャリストが協力し合うチーム医療が不可欠です。我々麻酔科医は、周術期医療の基礎を担うだけでなく、こうしたチーム医療の中心として、周術期医療の中核を担っていきたくと考えています。今後の医学の発展につながる様な研究を福岡大学から発信し、医学及び福岡大学医学部の発展に少しでも貢献できるように頑張っていく所存です。今後ともどうぞ宜しくお願ひ致します。



内分泌・糖尿病内科学
教授

川浪 大治

2019年4月1日付で医学部内分泌・糖尿病内科学講座教授を拝命致しました。教室を立ち上げ大きく発展させてこられた前任の柳瀬敏彦先生の後を継ぐ重責に身が引き締まる思いでおります。私は1998年に福岡大学医学部を卒業後、虎の門病院で初期研修を行い、その後は2019年3月まで東京慈恵会医科大学で勤務をしていました。この度、ご縁がありまして21年ぶりに母校に戻って参りました。糖尿病、特に合併症の成因と治療を自身のフィールドとしております。我が国の糖尿病患者数は1000万人に達していると推定されており、当科の果たすべき役割は今後大きくなっていくものと考えています。これまで同様に内分泌疾患の診療にも力を入れて、関連する診療科との円滑な連携を構築していきたいと思っております。医療に対する惜しみない貢献をする人材を多く育成していくことが私の目標です。また、医学生に対してはプロフェッショナルリズムを持つこと、そして情熱を持って学業に臨むことの大切さを伝え続けたいと思っております。教育、診療、研究のすべてにおいて全力を尽くす所存です。ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



看護学科
教授

大倉 義文

平成31年4月に医学部看護学科専門基礎分野教授に着任しました。昭和63年に広島大学医学部を卒業し、その後広島市民病院 循環器内科、済生会広島病院 循環器内科、スイスジュネーブ大学 循環器内科、福岡歯科大学 総合医学講座内科学分野・保健福祉学科教授・学科長を経て、この度の拝命となりました。学生教育においては、病理学・免疫学・薬理学等の基礎医学や内科学を中心とした専門基礎分野において、これまでの臨床経験を踏まえた活用能力（リテラシー）を意識した教育に取り組んでいます。

診療および資格として、日本内科学会認定医・総合内科専門医、日本循環器学会専門医、日本動脈硬化学会評議員としての研鑽を積みながら、循環器内科を中心に携わっています。研究分野は、広島大学大学院（医学系研究科）から継続している動脈硬化学を中心とした循環器疾患の病態に関する研究とともに、非侵襲的神経イメージングによる大脳前頭野の機能局在部位の解析等の大脳認知機能や脳神経科学の分野の研究にも取り組んでいます。

これからは、『多様性（Diversity）』が求められる時代と言われています。医学部看護学科や大学院教育にも幅広く貢献し福岡大学医学部の発展のため尽力していきますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



筑紫病院外科
教授

渡部 雅人

平成31年4月1日付で福岡大学筑紫病院外科教授に就任いたしました渡部雅人（わたなべまさひと）と申します。初代有馬純孝教授、2代

目前川隆文教授に続いて、私が3代目となります。当科は消化器外科および呼吸器・乳腺内分泌外科を担っており、それぞれ福岡大病院と連携して診療にあたっております。

私は平成3年に九州大学医学部を卒業し第1外科(現臨床・腫瘍外科)に入局しました。外科専門医を取得後、平成8年大学院に入学し肝胆道外科の基礎研究を行い、平成12年修了して学位を取得しました。消化器外科専門医を取得後、平成17年から九州大学医学部の助教を務め、臨床・腫瘍外科の肝胆膵グループと上部消化管グループで修練しました。そして平成19年から北九州市立医療センターに外科部長として勤務し、上部消化管外科を専門としました。今日までに専門領域では食道外科専門医、日本内視鏡外科学会技術認定を胸腔鏡下食道切除術で取得しています。

筑紫医療圏でも高齢化が進み、悪性新生物の入院患者推計は増加傾向にあり、地域がん診療病院として基本理念である「あたたかい医療」を行っていきます。どうぞよろしくごお願い申し上げます。



小児科学
准教授
石井 敦士

本年度より、福岡大学医学部小児科学教室准教授を拝命いたしました。私は2007年に福岡大学を卒業し、山口県で初期臨床研修を終了し、2009年より廣瀬伸一教授が主催する福岡大学小児科に入局しました。小児科専門医取得後は、小児神経を専門としております。大学院では、日本学術集会特別研究員となり遺伝子解析と細胞生化学的手法を用いててんかんの病態研究に従事しました。学位取得後は、米国Duke大学、アリゾナ大学でポスドクを行い、2017年より助教として大学へ復帰させていただき、てんかんを主に小児神経疾患と自閉スペクトラム症や注意欠如多動症などの神経発達症を専門に診療しております。研究では、米国時代から継続して次世代シーケンサーによるてんかんの遺伝子研究を行い、遺伝子解析から得た知見から、遺伝子治療研究へ展開しています。2018年に講師を拝命し、初めてM5副担任となり教育者の自覚が芽生えました。また、医局長として医局員が働きやすい環境を作ること、学生や研修医に小児医療を知ってもらうことに喜びを感じています。未熟ですが、微力ながら福岡大学医学部に貢献できるよう努力します。今後ともご指導、ご鞭撻のほどを宜しくごお願い申し上げます。



産科婦人科学
准教授
四元 房典

宮本新吾教授のご推挙により2019年4月1日付で福岡大学医学部産科婦人科学准教授を拝命致しました。私は2003年に九州大学を卒業し、九州大学医学部産科婦人科学産科学教室に入局しました。九州大病院と北九州市立医療センターで研修した後、2005年に福岡大学大学院へ入学し、悪性腫瘍における細胞増殖因子を標的とした癌治療についての研究で学位を取得しました。修了後は、福岡大学医学部生化学講座で黒木政秀教授(現名誉教授)のご指導の下、大学院時代の研究成果によって開発された本邦初の標的治療薬を用いた医師主導型治験に参加し、その有効性をヒトで実証するところまで行いました。2012年から米国カリフォルニア州のサンフォード・バーナム医学研究所で博士研究員としてがん微小環境における血管新生に対する機能解析の研究に携わりまし

た。2015年から福岡大学医学部産婦人科学教室で講師として臨床業務に従事し、2018年4月から産婦人科領域でもロボット手術が保険適応になったことから、子宮筋腫や子宮体癌症例に対して積極的にロボット手術を行っています。最近では、着床不全症例に対する再生医療を用いた不妊治療を開発し、産婦人科領域では本邦初の再生医療の実現化に向けて活動しています。

これまで福岡大学の多くの先生方にご支援いただき、医師として研究者として教育者として少しずつ成長させていただきました。その経験を活かし、微力ながら福岡大学医学部に貢献できるように精進し、まだまだ若輩者ではございますので皆様からのより一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。



呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学
准教授
佐藤 寿彦

令和元年5月1日より本学呼吸器・乳腺・小児外科の准教授を拝命いたしました。福岡大学呼吸器外科医グループは日本屈指のチームであり、その一員として受け入れていただき大変嬉しく思っております。私は1998年に京都大学医学部を卒業後は市中病院を中心として呼吸器外科の修練を積んで参りました。その後人工臓器の研究で学位をいただきましたのち、母校で10年あまり、臨床では低侵襲手術、胸腔鏡手術・ロボット手術の教育と指導(メンター・プロクター)のほか、移植医療にも従事、研究では人工気管・低侵襲医療機器の開発・応用にあって参りました。着任後呼吸器外科では全国でも数施設・九州地方で初であるロボット手術の症例見学施設(メンターサイト)となることができました。今回いただきましたチャンスをいかし、この伝統と実績あるチームの発展、また福岡大学の今後の発展のために尽くしたい所存ですので、皆様どうぞご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。これまで九州には縁のなかった私ですが、余暇には趣味のバイクで各地をまわることを楽しみにしています。



歯科口腔外科
准教授
梅本 丈二

このたび福岡大病院摂食嚥下センター・センター長ならびに歯科口腔外科・准教授を拝命致しました梅本丈二です。私は1997年に九州大学歯学部を卒業し、1999年に福岡大学医学部歯科口腔外科学講座に入局し、現在に至ります。2006年より院内で摂食嚥下リハビリテーションに携わるようになり、今回摂食嚥下センター開設に伴い、同センター長の重任を仰せつかりました。当センターは、誤嚥性肺炎や脳卒中だけではなく、神経筋疾患や認知症、食道疾患などの摂食嚥下障害を対象とする頻度が高く、全国的にも特徴的な医科歯科連携を基盤とした活動を行っています。スタッフは、2名の歯科医師レジデントの他に、看護師、言語聴覚士、管理栄養士、歯科衛生士などの多職種が、各部署との掛け持ちで協力してくれています。また、嚥下障害の他に、睡眠時無呼吸症候群に対するマウスピースを作製し、睡眠医療にも携わっています。いずれも学際的なアプローチを必要としますが、これらの分野に関心を持つ次世代の先生方や、多職種の方々が増えてくれることを期待しています。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくごお願い申し上げます。



眼科
准教授
尾崎 弘明

この度、内尾英一教授のご高配により眼科学教室准教授を拝命いたしました。私は平成2年に大分医科大学(現大分大学医学部)を卒業し、福岡大学眼科学教室(大島健司教授)に入局し、眼科医としての人生をスタートさせました。平成9年には「眼内血管新生の機序の解明」のテーマで学位を取得させていただき、さらに米国ジョンズホプキンス大学、ウイルマー眼研究所のPeter A.Campochiaro教授の下へ2年半留学し、糖尿病網膜症における血管新生の原因物質であるVEGF(Vascular Endothelial Growth Factor)の研究に傾倒してまいりました。帰国後は網膜硝子体手術と緑内障を中心とした診療に従事し、日々研究、臨床活動に勤しんでおります。私が入局した頃と比べると眼科領域における手術器械や補助薬剤は格段に進化し、緑内障の領域では眼圧下降の創薬が続いており隔世の感があります。しかしながら私の専門分野の緑内障と糖尿病網膜症は本邦の中途失明原因の第一位と二位の疾患であり、難治の患者さんと対峙して治療に苦慮する日々を送っております。なにぶん浅学非才の身ですが、今後も医学生と若手医師の指導及び福岡大学の発展のために微力ながら切磋琢磨して参りたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願いたします。



救命救急センター
准教授
喜多村 泰輔

2019年4月から救命救急センターの准教授を拝命いたしました。私は福岡大学を平成5年に卒業し、救命救急センターに入局しました。外傷治療に惹かれ福岡大学整形外科で整形外科の基礎を学び、熊本整形外科、総合せき損センターで整形外科・脊椎外傷の研修を致しました。

救命救急センターに戻り、急性期整形外傷の研鑽をして参りました。重症外傷の患者さんの治療は病院前救護から病院での救急集中治療、専門的治療およびリハビリテーションまで、シームレスな治療が重要である事を学びました。2012年からの福岡東医療センター・高知医療センターでの勤務経験でドクターヘリ・災害医療や責任者としての救急医療の勉強もさせて頂きました。病院で治療するだけでなく、医師が現場に出勤し、早期に治療を開始することで救命率の向上や機能的予後の改善が望めると考えました。この経験を活かし2018年1月から運用開始した福岡大学病院のドクターカー(Fast Medical Response Car:FMRC)の導入にも関わらせていただきました。今後は病院前を含めた『攻めの救急医療』を実践して福岡大学病院と地域の救急医療システムの発展に微力ながら尽くして参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願申し上げます。



小児科
准教授
野村 優子

廣瀬伸一教授の御推挙により、本年度より福岡大学病院小児科准教授を拝命致しました。私は、平成5年に福岡大学医学部へ入学後、平成11年に福岡大学小児科へ入局致しました。福岡大学病院、筑紫病院のほか、九州厚生年金病院(現JCHO九州病院)、田川市立病院などで部外研修を行い、そのうち小児血液・腫瘍領域を専門とすることを志すようになりました。平成17年からは福岡大学大学院に進学し、主にリンパ腫の研究をしながら学位を取得致しました。大学院卒業後は九州がんセンター小児科で部外研修を行い、造血幹細胞移植医療を中心に診療経験を積ませていただきました。平成22年に助教として福岡大学病院へ戻り、平成27年4月に7-4講師、平成30年4月に講師に就任致しました。振り返ると、高校卒業後に故郷の下関を離れてから四半世紀以上福岡大学に所属しており、あっという間に時が過ぎていったように感じています。微力ながら小児血液・がん専門医、指導医としての経験を生かし、これからも臨床、教育、研究の面から福岡大学の小児医療に尽力していきたいと考えております。今後とも、どうかご指導ご鞭撻のほどよろしくお願申し上げます。

医師国家試験 結果報告

第113回医師国家試験(平成31年2月9～10日実施)に139人が受験し、100人(新卒88人・既卒12人)が合格しました。合格率は71.9%、新卒のみの合格率は75.2%でした。

看護師・保健師 国家試験結果報告

第108回看護師国家試験(平成31年2月17日実施)に104人が受験し、104人(新卒)が合格しました(合格率100%)。また18人(新卒)が第105回保健師国家試験(平成31年2月15日実施)を受験し、18人全員合格しています(合格率100%)。

学位取得

次の方は、福岡大学より博士(医学)を授与されました。

課程修了による学位取得者 [平成31年3月14日付け]

- ・米澤 貴理子(人体生物系)
- ・高橋 宏幸(生体制御系)
- ・池松 夏紀(社会医学系)
- ・高橋 弘幸(先端医療科学系)
- ・羅 昊(人体生物系)
- ・高橋 庸子(病態構造系)
- ・山之口 稔隆(社会医学系)
- ・阿南 春分(先端医療科学系)
- ・衛藤 明子(生体制御系)
- ・宮崎 健(病態構造系)
- ・野瀬 大補(先端医療科学系)
- ・神菌 洋子(先端医療科学系)
- ・小野澤 久輔(生体制御系)
- ・松永 渉(病態機能系)
- ・岩屋智加予(先端医療科学系)
- ・中西 順子(先端医療科学系)

論文提出による学位取得者 [平成31年3月14日付け]

- ・金澤 和貴(病態機能系)



呼吸器内科
准教授
松本 武格

平成11年3月に福岡大学医学部を卒業後、当院で研修医、助手を務め、平成21年から4年間福岡大学大学院に進学しています。その後、助教を務め平成31年4月1日より福岡大学病院呼吸器内科准教授を拝命いたしました松本武格です。趣味は、ドライブとワインを飲むことです。出身は長崎県佐世保市ですが学生時代から数えて26年、医師になり20年福岡に在住しており福岡がすでに第2の故郷となっています。学生時代と比べると福岡大学院の周辺も大きく変わり、都市高速、地下鉄、新病棟の竣工等の周辺の変化や、電子カルテ導入等システムの変化についていけないこともあります。その時は、講義棟や部室周辺や研究棟の前に桜やサツキ等、学生時代から見ていた変わらない風景を寄る辺とし精進しています。

呼吸器内科は現在、肺癌、細菌性肺炎、間質性肺炎、睡眠時無呼吸症候群等の疾患等他疾患について診察、加療しています。特に肺癌、細菌性肺炎は症例数が多く日々診療に追われています。患者が多いことを言い訳にしておりますが、今後も研究、教育にも力を入れていく所存です。今後も皆様のご教授とご鞭撻のほどよろしく願いいたします。



再生・移植医学
准教授
坂田 直昭

この度、小玉正太教授のご推挙により、再生・移植医学講座准教授を拝命いたしました。1年半ほど寄付講座付きでしたが、やっと本学の一員として認めていただいたのかと感慨もひとしおです。大学の仕事も回ってくる様になり、本学スタッフとしての自覚も出てきました。

私は平成9年に東北大学を卒業後、平成12年に東北大学消化器外科に入学し、長年外科畑を歩んでまいりましたが、一昨年より基礎の研究者にジョブチェンジして本学にお世話になっております。研究に教育と日々充実過ごさせておりますが、40過ぎでの単身赴任は身に堪えますね。早く家族と福岡で暮らしたいものです。

当講座のミッションは再生・移植医学に関する高いレベルの研究成果の発信と臨床への還元、再生・移植医学の面白さを、実習講義を通じて学生に伝えること、そして九州地方の臨床臓器移植の推進です。小玉教授を支え、ミッションに全力で取り組み、福大に貢献していきたいと考えております。改めまして今後ともよろしく願い申し上げます。



筑紫病院耳鼻いんこう科
准教授
澤津橋 基広

平成31年3月末に九州大学を退局し、4月から筑紫病院でお世話になっております。出身は宮崎市です。趣味は、スノーボード、スキー、キャンプ、サッカーです。サッカーは、0-40、0-50の社会人サッカーチームに所属し、今も継続しています。また、日本サッカー協会に所属し、NF Repとしてアンチドーピング活動も行っています。平成5年に佐賀医科大学を卒業後そのまま佐賀に入局。大学院(外科病理)も含めまして、10年間所属

しました。その後、スウェーデン王立イエテボリ大学に臨床留学し、民間の織田病院での就職期間を経た後、縁ありまして九州大学に入局し、九州大学病院に10年間勤務しました。専門は、上気道(鼻副鼻腔から喉頭・気管の疾患)です。また、機能外科を得意としています。具体的には、伝音性難聴、嗅覚障害、鼻閉(鼻副鼻腔炎疾患)、睡眠時無呼吸、音声障害や声帯麻痺、嚥下障害の患者さんの診断を行い、手術適応があれば、内視鏡や顕微鏡を用いた機能外科手術を行っています。今後は、その専門性を活かし、全国レベルでの模範になるべく、大学病院としての責務を果たしていきたいと思っております。宜しくお願い申し上げます。



筑紫病院眼科
准教授
久富 智朗

平成31年4月より、向野利寛筑紫病院前院長、柴田陽三病院長のお許しを得て、眼科診療部長、准教授に就任致しました。大学院時代より石橋達朗先生、園田康平先生に師事し、4月より内尾英一先生にご指導頂いております。当院眼科では、向野前院長が難治性の重症網膜硝子体疾患治療を精力的に行って来られました。また2代目の大島裕司先生は加齢黄斑変性をはじめとした網膜血管障害治療に取り組まれてきました。この度3代目眼科診療部長として伝統ある筑紫病院眼科に就任させていただきます。大変光栄で身の引き締まる思いです。

私も難治性の網膜硝子体疾患の手術療法を専門としております。今後も増殖糖尿病網膜症や裂孔原性網膜剥離、黄斑円孔、黄斑上膜などの網膜硝子体疾患に対する小切開硝子体手術、緑内障、白内障手術等、最新の手術療法を中心に正確できめ細やかな診断・治療を行い、専門性の高い医療を提供して参ります。細胞生物学や病理学に基づいた疾患病態の理解や治療法の確立を目指しています。また同時に若手医師を指導し、臨床・研究・教育で活躍する医師を育てたいと思っております。今後御指導、御支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



脳神経内科学
講師
藤岡 伸助

2019年4月より、脳神経内科学講座の講師を拝命いたしました。私は2003年に福岡大学医学部を卒業し、福岡大学病院で初期研修を受け、東京労災病院神経内科、福岡和白病院神経内科にて臨床に携わりました。2010年4月より米国フロリダ州にあるメイヨクリニックに留学し、遺伝性パーキンソン病およびパーキンソン病関連疾患の家系調査、病理学的評価、遺伝学的解析を中心とした研究に従事いたしました。同施設が神経変性疾患の病理学的研究で有名であり、剖検脳が多数集まることから、毎週のように剖検ならびにCPCに参加することができました。

2014年4月より福岡大学神経内科学教室に助教として復帰いたしました。現在は、病棟医長として神経内科領域全般の臨床に携わっております。その傍ら、神経変性疾患における診断ならびに進行にかかわる血清・髄液バイオマーカーの開発研究を始めております。また近隣の病院との協力のもと、パーキンソン病に対する卓球リハビリテーションの効果を評価する一次臨床研究がちょうど終了したところで、多施設共同研究の準備をしております。

福岡大学ならびに関連病院の発展に寄与できるよう努力してまいります。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。



循環器内科
講師
志賀 悠平

本年度より、福岡大学病院循環器内科講師を拝命致しました。私は、平成15年に福岡大学を卒業し、福岡大学病院循環器内科に入局しました。また、平成20年には大学院医学研究科に進学し、非侵襲的なマルチスライスCT検査により診断された冠動脈疾患とバイオマーカーとの関連性について研究し学位を取得しました。

現在は、年々増加の一途をたどる心不全に対し、臨床体制の強化・臨床研究を行っています。心不全の治療目標は、延命から患者の生活の質維持、向上や患者の意向(意思決定)や生活背景を考慮した「支える医療」へと変化しており、多職種チームによるアプローチが重要となっています。心不全患者も住み慣れた場所で、その人らしく生きることができるよう、大学病院の医師として、地域医療の向上や人材育成、患者教育に取り組みたいと考えています。

循環器内科の臨床と研究を通じて社会に貢献し、福岡大学病院の発展に微力ながら貢献できるよう努力して参ります。今後ともご指導、ご鞭撻の程、どうぞ宜しくお願い致します。



産婦人科
講師
南 星 旭

宮本新吾教授の御推挙により、平成31年4月に福岡大学病院産婦人科講師を拝命いたしました南星旭と申します。私は福岡大学医学部に入学後、平成17年に卒業し、福岡大学病院で初期臨床研修を行いました。初期研修開始当初は産婦人科にあまり興味がありませんでしたが、産婦人科の研修にて婦人科癌や周産期の診療を行っていくうちに徐々に産婦人科学に対して興味を持つようになり、初期研修終了後の平成19年より福岡大学産婦人科学教室に入局いたしました。平成21年に産婦人科専門医を取得し、同時に大学院博士課程に進学しました。大学院では、癌の標的分子として上皮系増殖因子について研究を行い、平成24年に学位を取得しました。学位取得後は、山口赤十字病院にて2年間部外研修を行い、平成26年に助教として福岡大学病院へ戻り、平成30年4月に7-4講師に就任いたしました。現在は、病棟医長として日々診療に励んでいます。若輩者ではございますが、今までの経験を生かし、臨床、研究の面から福岡大学の産婦人科診療に尽力していきたいと考えております。今後とも、皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



脳神経外科
講師
福田 健治

井上亨教授のご推挙により、2019年4月1日より福岡大学病院脳神経外科講師を拝命致しました。私は太宰府出身であり、筑紫丘高校、熊本大学医学部を卒業後、2002年より福岡徳洲会病院、国立循環器病研究センターで脳神経外科医としての研鑽を積み、2012年4月より井上亨教授が主催する福岡大学脳神経外科に入局しました。専門は脳血管内治療及び脳血管障害全般です。2016年度に脳動脈瘤に対するコイル塞栓術後の治癒の予測因子であるwhite collar signの研究で学位を取得しました。この間、ドイツのエッセンにあるAlfried Krupp Hospitalに臨床留学を行う機会を頂き、最先端の脳血管内治療の臨床を学ぶことができました。脳血管内治療は近年、新しいデバイス、新しいエビデンスが多く発表され、飛躍的に進歩している領域になります。微力ではありますが、これまでの経験を生かし、臨床、研究、教育の面から福岡大学の脳神経外科医療に尽力していきたいと考えております。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



腎臓・膠原病内科
講師
安野 哲彦

中島衛教授のご推挙により、平成31年4月より福岡大学病院腎臓・膠原病内科講師を拝命致しました。私は平成13年に福岡大学を卒業し、臨床研修を終了後に当時の第四内科に入局しました。大学院は齊藤喬雄教授の御指導により、急性腎不全をきたす先天性横紋筋融解症の研究に従事させて頂き、平成20年に学位を取得しました。その後、大学病院、済生会福岡総合病院にて診療させて頂きました。平成22年京都大学iPS細胞研究所にて、疾患特異的iPS細胞の樹立、腎臓の再生について研究しました。平成26年からは大学の助教として、スポーツ科学部との共同研究により、運動と腎血流の関係に関する研究に携わらせて頂いております。衛生・公衆衛生学教室の有馬久富教授にご指導頂きながら、平成29年より長崎県壱岐市での疫学研究(ISSA-CKD研究)を行っています。上司の先生方に恵まれて、遺伝子、細胞培養、運動療法、疫学に関する研究に携わることができました。臨床では在宅医療に興味があり、在宅血液透析の導入に向けた取り組みを行っています。今後臨床と研究を両立させ、微力ながら福岡大学医学部に貢献できるように努力します。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

祝 第21回福岡大学医学会賞

50音順



高橋 弘幸

GLP-1 Receptor Agonist Exendin-4 Attenuates NR4A Orphan Nuclear Receptor NOR1 Expression in Vascular Smooth Muscle Cells



齊田 和哉

Biofeedback effect of hybrid assistive limb in stroke rehabilitation: A proof of concept study using functional near infrared spectroscopy



松岡 優太

Sex difference between target levels of cholesterol-related parameters and post-PCI long-term clinical outcomes: From the FU-Registry